

絵画鑑賞はどのように進むのか？ 発話に基づくタイムコースと解説文の効果の検討

How art appreciation goes on? Analysis of time-course and effects of commentary based on free conversation

田中吉史

Yoshifumi Tanaka

金沢工業大学

Kanazawa Institute of Technology

tanakay@neptune.kanazawa-it.ac.jp

Abstract

It is known that art appreciation beginners have “reality constraints,” specifically a strong tendency to insist on identifying the depicted object and its realistic expression in the artwork. We examined effect of reading commentaries on artwork to the relaxation of reality constraints, and time course of appreciators’ response to painting. In the first session of the experiment, 24 pairs of participants appreciated two paintings under one of three conditions: reading commentaries on the objects depicted in each painting, reading commentaries on the formal aspect of the painting, and reading no commentary. In the second session, the participants viewed a concrete painting one of two paintings by van Gogh and by Sisley without any commentary. In each session, participants freely talked to each other while viewing the paintings. The analysis of the verbal protocol indicated that the commentaries on the formal aspect might enhance to respond to formal aspect of the painting in the early stage of appreciation and to integrate various aspect of the painting. The results also suggested that the object commentaries might strengthen the reality constraints and increase to insist on the local objects on each painting.

Keywords — Art Appreciation, Creativity, Constraints Relaxation

1. はじめに

近年の美術鑑賞教育では、芸術鑑賞の過程を、作品から与えられる情報を受動に受け取る過程としてではなく、鑑賞者自身が能動的に情報を引き出していく過程として捉え、鑑賞者の能動性や創造性を促進することが注目されている [1]。一方、芸術における創造性へ

の認知科学的アプローチでは、創作者の認知過程に注目が集まっており、鑑賞者の創造性についてはあまり検討されていなかった。

近年の創造性に関する認知科学研究の多くは、我々の思考における制約を緩和することで、創造的思考が促進される、と捉えている。制約緩和パラダイムを芸術鑑賞の過程にも適用することで、芸術鑑賞における創造性にアプローチすることが可能になると考えられる。

美術鑑賞の初心者、絵画に描かれた事物の写実性や事物の特定に固執する傾向（写実性制約）があることが指摘されている [2, 3]。この写実性制約を緩和することが、鑑賞者にとっての創造的な思考を促すことにつながると考えられる。

田中・松本 [2] は、写実性制約を緩和するための方法として、絵画鑑賞時に呈示される解説文の効果を検討した。彼らの実験では、美術初心者の大学生に5点の絵画を1点ずつ呈示し、気づいたことを自由記述させるという課題が用いられた。その際、最初の3点の鑑賞（事前鑑賞）については、絵画とともに、それに描かれた事物に関する解説文を呈示される対象物解説文条件、絵画の構図や表現技法についての解説文を呈示される構図解説文条件、絵画のみ呈示される統制条件、事前鑑賞を省略する条件の4条件を設け、解説文なしで呈示される後半2点の絵画（事後鑑賞）に対する自由記述を分析した。その結果、事前鑑賞で解説文を呈示された条件では他の条件よりも記述量が多く、また、構図解説条件では他の条件よりも絵画の形式的側面に着目した記述が増え、写実性制約が緩和される可能性が示唆された。

本発表では、以下の問題点について検討する。

第1に、絵画に対する言語的な反応を、筆記ではなく発話によって収集することを試みる。田中・松本 [2] は参加者一人ずつに絵画を呈示して、筆記によって絵

画に対する反応を収集していたが、全体に記述量が少なかった。絵画を見て気づいたことが多くあっても、それを書くのが面倒であり、そのため反応が少なかった可能性もある。そこで今回は、友人同士2人一組で絵画鑑賞し会話するという状況設定を行い、発話によってより多くの反応を収集することを試みる。

第2に、絵画鑑賞時の時間経過に伴う反応の変化を検討する。田中・松本[2]は鑑賞する時間を統一しておらず、参加者の自由記述がどの程度時間をかけて行われていたのが不明であり、時間経過と共に絵画への反応がどのように変化するかは検討されていなかった。そこで、今回は鑑賞時間を5分間とし、1分ごとに発話の特徴を検討することで、時間経過と共に反応がどのように変化するかを検討する。なお、美術館での鑑賞行動の研究では、作品1点あたりの鑑賞時間は40秒程度という報告があり[4]、それと比べると5分間という時間設定はかなり長い。一般的な鑑賞時間より長い5分間鑑賞することで、鑑賞体験にどのような影響を及ぼすのかも検討する。

第3に、田中・松本では具象画と抽象画1点ずつのみの反応を検討していた。しかし、単に具象画、抽象画と言ってもさまざまなスタイルがあり、それによって鑑賞者の反応は変化するはずである。そこで今回は現在進行形の実験の中から、2点の異なる作家による具象画に対する反応を比較する。

本発表では、絵画ごとの発話を探索的に分析しながら、上記の問題について検討を行う。

2. 方法

参加者 実験には、美術初心者の大学生48人が友人同士の2人一組で参加した。実験後の質問紙調査によると、通常の学校教育以外で美術教育を受けた経験のある人はいなかった。また、1年あたりに美術館を訪れる回数は0-1回程度であった。

鑑賞材料 鑑賞材料として、田中・松本[2]と同じ、ゴッホ「夜のカフェテラス」、ルノワール「ムーラン・ド・ラ・ギャレット」(以上、具象画)、カンディンスキー「コンポジションVII」、マティス「ピアノのレッスン」(以上、抽象画)の4点に加え、シスレー「夏の風景」(具象画)、モンドリアン「大きい赤の平面、黄色、黒、灰色と青によるコンポジション」(抽象画)の2点、合計6点を鑑賞材料とした。これらの絵画の画像を、下に作者名とタイトルを載せて、A3サイズでカラープリンターにより印刷した。なお、本報告では、これらの6点のうち、後述する事前鑑賞フェーズ、事後鑑賞フェーズで呈示された2つの具象画、ゴッホ

「夜のカフェテラス」(図1、以下ゴッホ)とシスレー「夏の風景」(図2、以下シスレー)を分析対象とした。これらはともに風景画であり、いわゆる印象派に属し、一つ一つのオブジェクトの形態がやや曖昧に描かれているという共通点がある。一方、ゴッホが夜の街中を、シスレーが昼間の田園風景を描いているという点で対照的である。ゴッホは、夜の街頭に面して営業する明るいカフェテラスと背後に続く暗い街路を描いた風景画であり、比較的明確な形のオブジェクトが多数描かれており、オブジェクトの大きさが奥行きを知る手がかりとなる。一方、シスレーは、丘の上から見た田園風景を描いた風景画で、手前にある草地と廃屋のような建造物、樹木と、その向こうに平野と山脈が広がっている。ゴッホとは対照的に、対象物はややぼやけて描かれている。

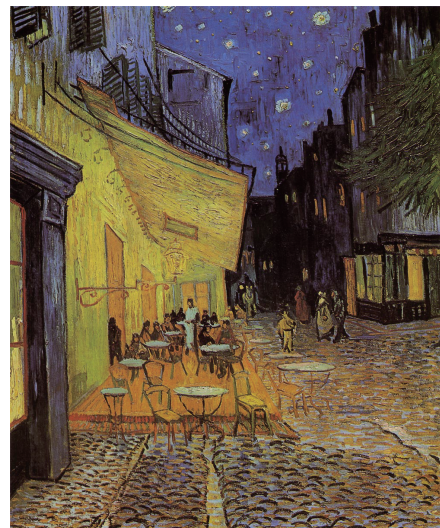


図1 鑑賞材料：ゴッホ/夜のカフェテラス



図2 鑑賞材料：シスレー/夏の風景

手続き 実験は、事前鑑賞フェーズ、解説文フェー

ズ、事後鑑賞フェーズの3フェーズからなった(表1)。事前／事後鑑賞の絵画の組み合わせは、ゴッホとカンディンスキーを事前鑑賞、シスレーとモンドリアンを事後鑑賞に用いる条件と、絵画と事前／事後の組み合わせを逆にした条件の2つであった。解説文フェーズでは解説文の種類に3条件(統制条件、対象物解説文条件、構図解説文条件)を設定し、ルノワールとマティスが呈示された。

参加者は2人でマジックミラーの前の長机に横に並んで着席し、机の上に置かれた絵画を見ながら自由に会話した。なお、2人のうち1人は話し手、もう1人は聞き手となり、主として話し手が気づいたことを話すこと、聞き手は相づちや問いかけを自由に行いながら話し手の発話を促すように教示し、相談して話し手と聞き手を決めてもらった。続いて、各絵画を1点につき5分ずつ見ながら、気づいたことを会話するように教示した。教示の後、事前鑑賞フェーズの絵画が2枚、解説文なしで呈示された。続く解説文フェーズでは、3つの条件のいずれかで2点の絵画が(対象物解説文条件と構図解説文条件ではそれぞれの解説文を伴って)呈示された。続いて、事後鑑賞フェーズでは、2点の絵画が解説文なしで呈示された。鑑賞中は、絵画に触れたり、指さしすることは制限しなかった。鑑賞中の様子は、マジックミラー越しで正面から録画・録音された。

表 1 実験手続き：鑑賞フェーズ、解説文条件と絵画の組み合わせ

事前鑑賞フェーズ	解説文フェーズ	事後鑑賞フェーズ
ゴッホ、 カンディンスキー	ルノワール、 マティス ・解説文なし ・対象物解説文 ・構図解説文	シスレー、 モンドリアン
シスレー、 モンドリアン	ルノワール、 マティス ・解説文なし ・対象物解説文 ・構図解説文	ゴッホ、 カンディンスキー

3. 結果

3.1 分析方法

本報告では、事後鑑賞フェーズで呈示された2点の具象画(ゴッホとシスレー)に対する発話を分析する。なお、事前の教示では話し手と聞き手で役割を決めたが、聞き手も積極的に発言しているペアが多く、話し

手と聞き手の発話にかなりの相互作用が見られた。そこで、以下の分析では、両者を区別せず、ペアの発話全体を分析することとした。

事前鑑賞フェーズでは、すべてのペアが解説文の条件に分かれる前にゴッホまたはシスレーを鑑賞しているので、それぞれの絵画について12ペアずつのデータを用いた。事後鑑賞フェーズでは、事前鑑賞では見なかった絵画について、解説文なし条件、対象物解説文条件、構図解説文条件に分かれており、それぞれの絵画と解説文条件の組み合わせで、4ペアずつのデータを用いた。

まず、録音された会話をテキストデータに書き起こした。その際、方言や口語的な表現は適宜修正を行った。また、単純な相づち、絵画とは関係ない雑談などの発話は除外した。このテキストデータを、テキストマイニング用ソフトウェア「Text Mining Studio 5.2.1」を用いて分析した。日本語解析エンジンとしてTMStudio3.2を用いて形態素解析と係り受け分析を行い、この出力を基にこの後の分析を行った。

3.2 全般的傾向

発話量の指標として発話の全形態素数を見たところ、田中・松本[2]とは異なり、両絵画とも条件間の差は見られず、事前鑑賞-事後鑑賞フェーズ間の差も見られなかった。

発話データを見ると、文脈に依存した省略や倒置が多く、また個々の発話は短いものが多かった。そこで、各ペアの発話を時間軸に沿って話題ごとに分割してアイデアユニットに分け、アイデアユニットを単位として以下の分析を行った。

3.3 ゴッホに対する発話

3.3.1 ゴッホにおける時間ユニットごとの特徴語

絵画を呈示してから1分ごとの時間ユニット1~5にわけ、各時間ユニットで開始されたアイデアユニットをまとめて、発話の時間的推移を検討した。

解説文条件別に、補完類似度に基づいて、時間ユニットごとの特徴語を求めた(表2)。いずれの条件においても、作者名、題名は冒頭のユニット1の特徴語となっていた。

次に形式的側面に関する特徴語に着目した。絵画の形式的側面(大きさや明暗、遠近感や距離など)に関する特徴語が出現する時間ユニットをみると、事後鑑

表 2 ゴッホに対する条件別の時間ユニットごとの特徴語 (補完類似度)

時間ユニット	1	2	3	4	5
事前鑑賞	いう (4.749) ゴッホ (4.638) 星 (4.638) 夜のカフェテラス (3.092) 感じる (2.809) 遠い (2.445) すごい (2.304) する (2.304) 明るい (2.051) する+ない (1.799) 暗い (1.799) 黄色 (1.799) 見る+できない (1.799)	っぽい (6.95) 不思議 (5.786) わかる+ない (4.403) 感じる (4.185) 大きい (4.057) すごい (3.02) ている (2.674) 建物 (2.547) 石 (2.547) 全体的 (2.547) 多分 (2.547) 大きさ (2.547) 名前 (2.547) 木 (2.547)	思う (5.654) 普通 (3.548) 扉 (3.053) いる (2.643) ある (2.601) 人 (2.601) 良い (2.558) ランプ (2.106) 来る (2.064) 大きい (1.569)	いる+ない (4.951) ウェーター (3.972) 色 (3.972) 無い+ない (3.888) こわい (3.469) 本当 (3.469) ている+ない (2.965) なる (2.462) する (2.434) 人 (2.434)	見る (5.019) 一緒 (4.007) 台 (4.007) 机 (3.508) 思う (3.023) 暗い (3.009) 見る+できる (3.009) 描く (2.51) ている (2.018) ランプ (2.018)
事後鑑賞・解説文なし	夜のカフェテラス (8.19) する (8.052) 感じる (6.032) すごい (5.257) ゴッホ (5.022) 絵 (3.943) 描く (3.943) ヨーロッパ (3.168) ている+ない (2.628) カフェテラス (2.628)	カフェ (4.528) 人間 (3.733) ている (3.457) 飲む (3.197) 酒 (3.197) 見る+できる (2.921) いう (2.627) なる (2.126) 気 (2.126) 大きい (2.126) 知る+ない (2.126)	上 (5.828) 違う (5.352) 行く (4.876) 星 (4.876) 光る (4.203) 作る (4.203) なる (2.775) 大きい (2.775) 思う (2.497) わかる+ない (2.299) 描く (2.299) 明るい (2.299)	いる (7.274) いう+? (4.938) 見る (4.938) ウェーター (4.236) 着る (4.236) 人 (3.752) っぽい (2.348) やる (2.348) 確か (2.348) ている (1.876)	ある (5.748) やる (4.876) 外 (4.876) いる (4.518) 無い+ない (4.32) 椅子 (4.203) 入る (4.203) いる+ない (3.727) 子供 (3.727) っぽい (2.299)
事後鑑賞・対象物解説文	わかる (6.881) 良い (4.892) 易い+しやすい (4.526) 夜のカフェテラス (4.526) ゴッホ (4.046) 星 (3.863) みる+したい (3.017) 教科書 (3.017) 埋もれる (3.017) 光 (2.538)	いる (5.78) 強い (3.853) 絵 (3.704) 描く (3.555) いう+? (3.334) 椅子 (3.334) 細かい (3.334) 石 (3.334) すごい (3.185) カフェテラス (2.815)	いう (6.615) きれい (4.839) 確か (4.839) 雑 (4.839) 入口 (4.456) 見る+できる (4.073) メイン (2.228) 感 (2.228) 周り (2.228) 部分 (2.228)	ている (11.668) する (7.272) 無い+ない? (4.396) 感じる (3.786) ランプ (3.031) 色 (2.576) 描く (2.499) お客さん (1.743) すぎる (1.743) する+? (1.743) やる (1.743) 感 (1.743) 行く (1.743) 出る (1.743) 大きさ (1.743) 店 (1.743) 塗る (1.743) 日本 (1.743) 木 (1.743) 油絵 (1.743)	人 (6.554) ある (3.713) なる (3.495) わかる+ない (3.277) 屋根 (3.277) 見る+できる (2.803) 大きい (2.803) 本当 (2.803) 無い+ない (2.074) 見る (1.856)
事後鑑賞・構図解説文	いう (4.749) ゴッホ (4.638) 星 (4.638) 夜のカフェテラス (3.092) 感じる (2.809) 遠い (2.445) すごい (2.304) する (2.304) 明るい (2.051) する+ない (1.799) 暗い (1.799) 黄色 (1.799) 見る+できない (1.799)	っぽい (6.95) 不思議 (5.786) わかる+ない (4.403) 感じる (4.185) 大きい (4.057) すごい (3.02) ている (2.674) 建物 (2.547) 石 (2.547) 全体的 (2.547) 多分 (2.547) 大きさ (2.547) 名前 (2.547) 木 (2.547)	思う (5.654) 普通 (3.548) 扉 (3.053) いる (2.643) ある (2.601) 人 (2.601) 良い (2.558) ランプ (2.106) 来る (2.064) 大きい (1.569)	いる+ない (4.951) ウェーター (3.972) 色 (3.972) 無い+ない (3.888) こわい (3.469) 本当 (3.469) ている+ない (2.965) なる (2.462) する (2.434) 人 (2.434)	見る (5.019) 一緒 (4.007) 台 (4.007) 机 (3.508) 思う (3.023) 暗い (3.009) 見る+できる (3.009) 描く (2.51) ている (2.018) ランプ (2.018)

賞フェーズの構図解説文条件ではユニット1から、事前鑑賞フェーズと、事後鑑賞フェーズの統制条件ではユニット2から、対象物解説文ではユニット4からこれらの語が出現していた。つまり、構図解説文条件では他の条件より比較的早い段階で形式的側面への言及が見られ、対象物解説文条件では形式的側面への言及がむしろ抑制される傾向があることが示唆された。

3.3.2 オブジェクトの大きさと遠近法に関する発話

形式的側面についての発話の中で、特に絵画の全体的構図に関わる発話として、ランプや扉、人物などのオブジェクトの大きさや距離、遠近感に関する発話を検討した。発話の中には、単にオブジェクトの大きさに言及するものの他、大きさを比較したり、そこから遠近法の歪みに言及するものなど画見られた。そこで、これらの発話として、「遠近感」「奥行き(感)」「遠近法」「距離-> おかしい+ない」「大きさ-> おかしい+ない」「比率-> おかしい+ない」「対比-> おかしい+ない」「比率-> おかしい」「対比-> おかしい」「違和感+ない-> おかしい」「わりと-> おかしい」「大きい」「大きい+ない」「小さい」「小さい+ない」「小さい+すぎる」「大きい+すぎる」「大きい」「大きさ」という単語や係り結びを含むアイデアユニットをふくむペアを抽出した。その結果、事前鑑賞フェーズで12ペア中5ペア、事後鑑賞フェーズの解説文なし条件と対象物解説文条件で3ペアずつ、構図解説文条件で2ペアが、該当するアイデアユニットを含んでいた。これらのうち、遠近表現の歪みに関する言及を行っているペアは、事前鑑賞フェーズでは2ペア、事後鑑賞フェーズの解説文条件で1ペア、対象物解説文条件は0ペア、構図解説文条件では2ペアであり、構図解説文条件では大きさに関する言及を行ったすべてのペアが遠近表現の歪みに言及していたが、対象物解説文条件では個別のオブジェクトの大きさを指摘するに留まっていた。

3.4 シスレーに対する発話

3.4.1 シスレーにおける時間ユニットごとの特徴語

シスレーでは、ゴッホと比較すると、「これ」など指示代名詞とともに絵画中のオブジェクトを指さす行動が頻出していた。そこで、指さされたオブジェクト(以下、指さし対象と呼ぶ)を符号化し、発話中の指示代名詞に置き換えて、発話の書き起こしの中に埋め

込んで分析することとした。指さし対象の一覧と、条件別の平均頻度を表3に示す。

シスレーに対する発話についても、ゴッホと同様、補完類似度に基づいて、解説文条件別に、時間ユニットごとの特徴語を求めた(表4)。ゴッホと同様、いずれの条件においても、題名は冒頭のユニット1の特徴語となっていた。

一方、シスレーでは、事前鑑賞・事後鑑賞とも対象物の色に対する言及は見られたものの、それ以外の形式的要素への言及はあまり見られず、絵画中の対象物に関する単語が多くを占めていた。参加者は、シスレーに対しては絵画中のオブジェクトが何かを特定することにほぼ集中していたと考えられる。

3.4.2 指さし対象と発話の関係

前述の通り、シスレーに対する発話では、絵画中のオブジェクトを指さしながら、そのオブジェクトが何かについて発話されることが多かった。そこで、絵画中の指さし対象のうち、最も出現頻度の高かった4つ(BLl:画面左隅の建物、BLc:画面中央の建造物らしきもの、HMld:画面左下隅にある人を思わせるオブジェクト、WHc:画面中央の遠景のなかに見える小さな白い領域)と、発話中の単語や他の指さし対象との共起関係を、条件ごとに分析した。分析にあたってはText Mining Studio 5.2.1の「注目語分析」を用い、4つの指さし対象を注目語として設定した。

条件ごとの共起ネットワークを図3、4、5、6に示す。事前鑑賞フェーズ(図3)では、HMldとBLcとが他の語を介してネットワークを形成し、WHcは他の多くの単語や指さしオブジェクトとネットワークを形成していたが、BLlは「屋根」「家+ない」とのみ共起していた。事後鑑賞フェーズの解説文なし条件(図4)では、WHcは「湖」という単語とのみ共起しており、「湖」としてのみ解釈されていると考えられる。一方、他の3つの指さし対象は、他の指さし対象(図中ではアルファベットで示されている)やさまざまな単語とネットワークを形成しており、これらが相互に関係づけられて発話されていることが示唆される。構図解説文条件(図6)では、4つの指さし対象はすべてリンクで結びついており、相互に関係づけるような発話がなされていることが読み取れる。しかし、対象物解説文条件(図5)では、4つの指さし対象は相互に独立したネットワークを形成しており、バラバラに言及されて関連づけが殆どなされていないことが示唆される。

表 3 シスレーにおける指さし対象の一覧と条件別の平均頻度

対象	ラベル	事前鑑賞	事後・解説なし	事後・対象物	事後・構図
中央付近の建物	BLc	2.25	2.00	2.25	1.50
中央付近の建物の下部	BLcd	0.33	0.00	0.25	0.00
左隅の建物	BLl	2.08	2.75	2.50	1.75
右下の欄	BRrd	0.58	1.75	1.00	0.25
画面の中央付近（漠然と）	Center	0.75	1.00	0.75	0.25
下の草むらを差す（広い範囲）	GR	0.83	0.50	0.50	0.25
下部左の草むらを差す	GRl	0.08	0.00	0.75	0.00
下部右の草むらを差す	GRr	0.17	1.00	0.00	0.25
画面左下の人物	HMld	1.58	3.00	2.25	1.50
左端を指さす	Left	0.33	0.25	0.25	0.25
画面左の中央付近を指さす	Leftc	0.17	0.25	0.00	0.00
画面左の遠景を差す	LNDl	0.25	0.50	0.25	0.25
画面中央の遠景を左右に点々と指す	LNDrl	0.50	0.75	0.25	0.25
画面の下半分を漠然と指す	Lower	0.33	0.00	0.00	0.25
画面中央の BLc から左端の中央を指さす	Lowercl	0.08	0.00	0.00	0.00
画面右の遠い山	MTr	0.75	0.25	0.25	0.00
中央左右の山並みをなぞる	MTrl	0.92	0.50	0.25	0.50
中央右下、欄の間のやや明るい箇所を指す	OBJcd	0.00	0.25	0.25	0.00
画面右下隅	Rde	0.17	0.00	0.00	0.00
画面右下方全体	Rightd	0.00	0.00	0.00	0.50
サインを指さす	SIGN	0.17	0.00	0.00	0.00
空全体	SKY	0.50	0.50	1.50	0.25
空の中央を指す	SKYc	0.00	0.50	0.75	0.50
空の中央やや右部分	SKYcr	0.08	0.00	0.00	0.00
画面左の空を指さす	SKYl	0.33	0.50	1.00	0.25
画面右上隅の空	SKYrue	0.08	0.25	0.50	0.00
中央の木	TRc	0.25	0.00	0.00	0.00
左端の木	TRl	0.08	0.00	0.25	0.00
右端の木	TRr	0.67	0.25	0.50	0.25
左の木の根元、BL c と BLl の間の白い斑点	SPOT-WHlc	0.00	0.00	0.00	0.75
中央右の白い部分	WHc	1.42	1.00	2.75	1.00
WHc の下の部分	WHcd	0.50	0.25	0.00	0.25
絵画全体	Whole	0.33	0.00	0.00	0.00
中央やや右下（白い領域の真下）の黄色い一点を指す	YLcd	0.25	0.75	0.00	0.75
左下隅のやや黄色い一点を指す	YLrd	0.00	0.25	0.00	0.00
左中央から中央を指す（白い部分と左右の木に隠れた部分を差す）	WHlcr	0.08	0.00	0.00	0.00
画面右、木と山の稜線の交わる箇所を指さす	TRr-MT	0.08	0.00	0.00	0.00
中央、BL c の右のやや丸い濃淡を指す	CIRCLE	0.00	0.00	0.25	0.00
画面左下隅から中央に向けて両手のひらを広げる	HMld-Center	0.00	0.00	0.25	0.00
建物の大きさを 2 本の指で示し、人と比較する	COMP(BLc,HMld)	0.08	0.00	0.00	0.00

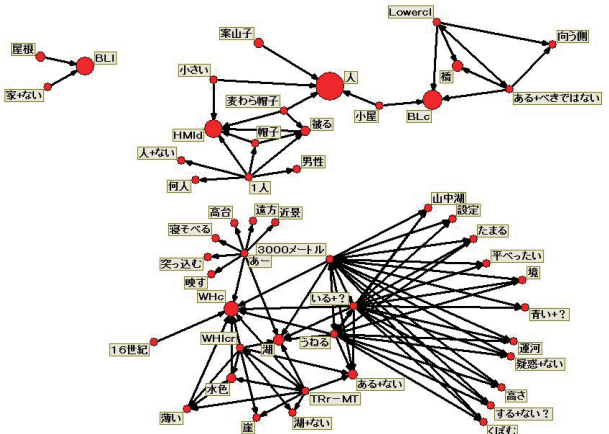


図 3 シスレーの事前鑑賞フェーズにおける指さし対象と発話の関係

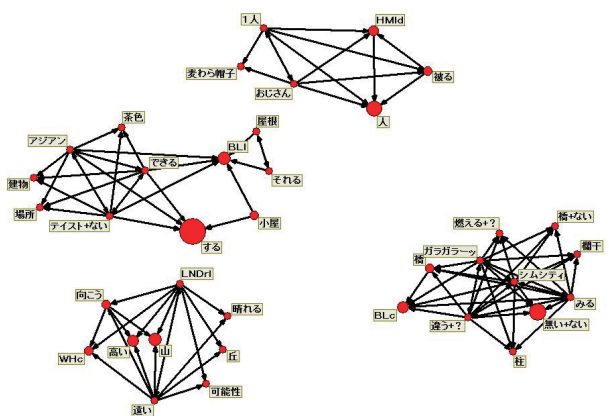


図 5 シスレーの事後鑑賞フェーズ・対象物解説文条件における指さし対象と発話の関係

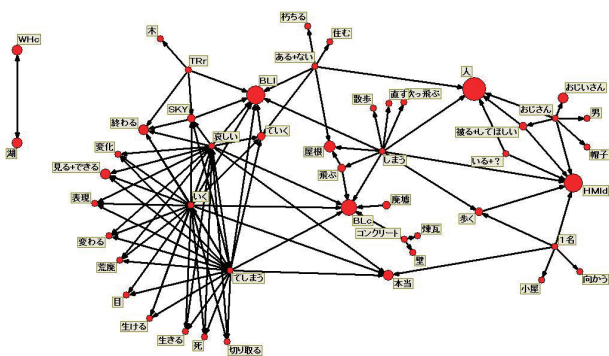


図 4 シスレーの事後鑑賞フェーズ・解説文なし条件における指さし対象と発話の関係

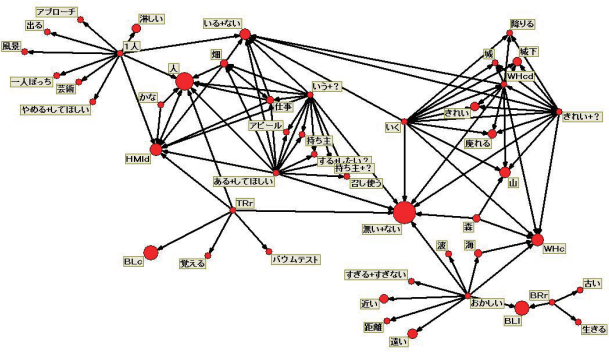


図 6 シスレーの事後鑑賞フェーズ・構図解説文条件における指さし対象と発話の関係

表 4 シスレーに対する条件別の時間ユニットごとの特徴語 (補完類似度)

時間ユニット	1	2	3	4	5
事前鑑賞	夏の風景 (8.583) ている (5.087) ある (3.922) 海 (3.433) 茶色 (3.433) いう (3.402) 感じる (3.308) きれい (2.85) ている+? (2.85) 廃れる (2.85) 淋しい (2.85)	高い (5.512) 夕焼け (4.968) 感じる (4.494) SKY (4.424) 後ろ (3.675) 状態 (3.675) 保存 (3.675) オレンジ (3.131) あ (2.586) 田舎 (2.586) 描く (2.586) 明るい (2.586)	違う (7.126) 家 (7.126) わかる+ない (5.333) 人 (5.333) 大きさ (4.46) 養豚 (4.46) BLI (3.999) 柵 (3.563) いる (3.551) 知る+ない (2.218)	する (6.609) 色 (6.609) いる (4.051) 木 (3.838) 感じる (3.411) ある (2.772) 知る+ない (2.558) GR (1.919) やる (1.919) 福列り (1.919) 感じる+ない (1.919) 床 (1.919) 塗る (1.919) 日本 (1.919) 描く+? (1.919) 平和 (1.919) 変える (1.919) 油絵 (1.919)	家 (6.1) ている+ない (5.07) 無い+ない (4.16) 森 (4.04) SKYc (3.545) 建物 (3.545) 混ざる (3.545) 青 (3.545) BLc (3.09) 雲 (3.05)
事後鑑賞・解説文なし	夏の風景 (8.359) シスレー (5.491) 知る+ない (4.417) 違う (3.819) HMIld (3.696) 無い+ない (3.696) 感じる (3.573) 廃墟 (3.343) 無い+ない? (3.343) いう (3.221) 多分 (3.221)	GRr (4.777) 草 (4.777) 色 (4.215) SKYc (3.559) 近づく (3.559) ている (3.184) WHc (2.997) 湖 (2.997) 終わる (2.997) 茶色 (2.997) 風景 (2.997)	日本 (8.9) 汚い (6.139) 描く (6.139) する (5.47) ポジション (4.665) 緑 (4.236) すごい (3.807) ある (3.138) BRrd (2.949) 黄色 (1.903) 黄色い (1.903) 海 (1.903) 絵 (1.903) 間違いない (1.903) 芸術 (1.903) 青い (1.903) 多い (1.903) 白 (1.903) 飛ぶ (1.903) 描く+ない (1.903) 別 (1.903)	良い (5.803) わかる+ない (5.355) 人 (5.349) っぽい (5.343) 遺跡 (4.466) 街 (4.466) 向こう (4.466) 住居 (4.466) 堅穴 (4.466) 被る+してほしい (4.466)	いる (4.697) 麦 (4.356) 空 (4.238) 山 (4.238) Center (3.897) YLcd (3.897) ひまわり (3.897) 名前 (3.897) あ (2.978) なる (2.978) 難しい (2.978) 来る (2.978)
事後鑑賞・対象物解説文	夏の風景 (7.666) ている (6.074) 草 (4.713) ある (4.314) いる (4.201) シスレー (4.145) いう (3.689) あ (2.953) うそ (2.953) 子供 (2.953)	BLc (8.434) 家 (6.154) 橋 (5.06) 見る+できない (4.969) っぽい (3.783) 火車 (3.374) 明らか (3.374) BLI (3.282) カス (2.781) 小屋 (2.781) 燃える (2.781)	無い+ない (6.194) ている (5.9) 山 (5.62) おかしい (4.18) 海 (3.747) MTrI (1.873) いう+? (1.873) やる (1.873) ガレキ (1.873) 花 (1.873) 光景 (1.873) 自然 (1.873) 色 (1.873) 川 (1.873) 無い (1.873)	良い (4.462) YLcd (3.987) ある (3.947) いく (3.485) ひまわり (3.485) ている+ない (2.983) いる (2.97) イメージ (2.482) 気 (2.482) 高い (2.482)	懐かしさ (4.627) 外 (4.229) 木 (4.229) 夏の風景 (3.036) 思う (2.762) 確か (2.24) 人 (2.24) MTrI (2.115) 懐かしい (2.115) 形 (2.115) 長い (2.115) 無い (2.115)
事後鑑賞・構図解説文	夏の風景 (8.583) ている (5.087) ある (3.922) 海 (3.433) 茶色 (3.433) いう (3.402) 感じる (3.308) きれい (2.85) ている+? (2.85) 廃れる (2.85) 淋しい (2.85)	高い (5.512) 夕焼け (4.968) 感じる (4.494) SKY (4.424) 後ろ (3.675) 状態 (3.675) 保存 (3.675) オレンジ (3.131) あ (2.586) 田舎 (2.586) 描く (2.586) 明るい (2.586)	違う (7.126) 家 (7.126) わかる+ない (5.333) 人 (5.333) 大きさ (4.46) 養豚 (4.46) BLI (3.999) 柵 (3.563) いる (3.551) 知る+ない (2.218)	する (6.609) 色 (6.609) いる (4.051) 木 (3.838) 感じる (3.411) ある (2.772) 知る+ない (2.558) GR (1.919) やる (1.919) 福列り (1.919) 感じる+ない (1.919) 床 (1.919) 塗る (1.919) 日本 (1.919) 描く+? (1.919) 平和 (1.919) 変える (1.919) 油絵 (1.919)	家 (6.1) ている+ない (5.07) 無い+ない (4.16) 森 (4.04) SKYc (3.545) 建物 (3.545) 混ざる (3.545) 青 (3.545) BLc (3.09) 雲 (3.05)

4. 考察

田中・松本 [2] とは異なり、解説文の有無や事前・事後鑑賞で発話量に違いがなかった。参加者のペアが友人同士であったため発話が促されたのと同時に、他者とのやり取りによってより多くのアイデア生成と発話が行われたのかもしれない。

時間ユニットごとの特徴語をみると、最初の1分間は題名や作者名の発話が集中していた。絵画鑑賞の開始段階で、題名がかなり強い手がかりとなることが確認されたが、逆に言えば鑑賞が進むにつれて、題名そのものからは離れていく、ということでもある。美術館での絵画鑑賞が作品1点あたり平均1分に満たないという報告 [4] があることを考えると、通常状況では、多くの鑑賞者は題名から示唆される事物の確認だけで鑑賞を終えていると考えられる。

解説文条件と時間ユニットごとの特徴語の関係から、解説文の効果が時間的観点からどのように作用するかが読み取れる。ゴッホにおいては（表2）、事後鑑賞フェーズの構図解説文条件では鑑賞を始めた初期の段階から、主に色や明るさなどの形式的要素へに注目していた。解説文なし条件や対象物解説文条件で、こうした形式的要素への言及が特徴語として顕れてくるのは1分以降（時間ユニット2以降）であり、構図解説文を読んだことが、形式的要素に気づきやすくていたと考えられる。ただし、事前鑑賞フェーズでも最初の時間ユニットで明暗や色への言及が見られている。事後鑑賞フェーズに入るまでにすでに4点の絵画を鑑賞していることによる疲労や、対象物鑑賞文によって形式的要素への着目が抑制される可能性もある。この点は今後さらに検討する必要がある。

一方、解説文の効果は単にどのような要素に着目するか、ということの他に、絵画に描かれた局所的な対象物の情報から、いかに絵画全体についての解釈を引き出すか、という点にも影響している可能性はある。ゴッホにおいては、個々の対象物の大きさを手がかりに遠近法の歪みに気づくのは構図解説文条件の参加者に見られた。同様の効果は、シスレーにおいても見られている。シスレーでは全体に形式的要素に着目した発話は少なかったが、指し対象と発話の共起関係に関する分析（図3、4、5、6）から、構図解説文条件では全体に複数の対象物間に関連づけられていくのに対して、対象物解説文では、局所的な対象物に注目して、それらと関係づけることにはつながりにくいことが分かった。解説文を読まない条件（事前鑑賞フェーズ、解説文なし条件）では、構図解説文ほどではないにせよ、複数の対象物に関連づけられていく可能性が示唆

されたので、構図解説文がこうした絵画全体の処理を促す、というだけではなく、対象物解説文がむしろ局所的な対象物への注目を促してしまう、別の言い方をすれば写実性制約をより強める作用を持つということも考えられる。

今回の2点の具象画のうち、ゴッホでは構図解説文において形式的要素への注目が促進されたが、シスレーでは必ずしもそのような傾向は確認されなかった。特に遠近法に関して、ゴッホは街路という遠近感の際立つ対象物を描いているのに対して、シスレーではそれほど遠近感を際立たせるような対象物がないことによるのかもしれない。もう一つの可能性は、題名の違いによる影響である。ゴッホにおいては「夜のカフェテラス」という絵画に描かれた具体的な対象物を指し示す題名が付けられているのに対し、シスレーの場合は「夏の風景」という絵画全体の情景を表し、特定の事物を指し示すのではない題名となっている。鑑賞者は写実性制約により事物を特定することをまず行う傾向があるため、むしろ「夜のカフェテラス」のような具体的な対象物を指し示す題名のほうが、事物を特定が早く達成されるため、事物の特定より先の処理を促す可能性もある。特に、シスレーの場合、題名が具体物を指し示していないため、鑑賞者は却って事物の特定に集中してしまうのかもしれない。これまで解説文のように豊かな情報量をもつ言語的情報の効果を検討してきたが、題名のような限られた言語的情報が、鑑賞者をいかにガイドするのかという点についても検討する必要があるだろう。

今回は、条件ごとに全ペアをまとめた形で、各鑑賞条件の全体的特徴を分析してきた。実際には同じ条件のなかでもペアによる特徴の違いは存在する。個別のペアの鑑賞過程について、よりミクロな観点から分析することも必要となろう。また、今回ゴッホについては指し対象についての分析は行わなかったが、ゴッホにおいても指しさがどのように行われているかを検討することで、ゴッホの絵画のどの部分からどのような情報が引き出され、写実性制約が緩和されていくのか、と言った点が明らかにできるかもしれない。

謝辞

本研究は JPSP 科研費 JP15K00213 の助成を受けたものです。

参考文献

- [1] Arenas, A., (2001) "From Image to Mind: Reflection on the Relationship Between Art and Public" (木下哲

夫 (訳) ”みる・かんがえる・はなす-鑑賞教育へのヒント”), 淡交社.

- [2] 田中吉史・松本彩希, (2013) “絵画鑑賞における認知的制約とその緩和” 認知科学, Vol. 20, No. 1, pp. 130-151.
- [3] 石橋 健太郎・岡田 猛, (2010) “他者作品の模写による描画創造の促進” 認知科学, Vol. 17, No. 1, pp. 196-223.
- [4] Brieder, Nadal, Leder & Rosenberg(2014) “Art in time and space: Context modulates the relation between art experience and viewing time”, PlosOne, Vol. 9, No. 6, pp. 1-8.